

23年大阪革命戦線 決起集会に結集せしも

革命的党派斗争

吉界党=国际根據地=蜂起の軍隊と結合する 革命戦線(結成準備会)を結成せしも

68年中期より69年1月東大決闘を最高峰とする全共闘運動は、その燃えかゝる69年秋、各艦の防衛戦として最後的燃え尽じ、69年羽田斗争に於て幕を閉じた。その中に於いて、我々赤軍派のみが唯一、自別斗争の勝利とその保証としての前段階武装蜂起に着手し、その前夜に於ける权力の攻撃によって敗化していったのである。

前段階武装蜂起のみが革命の戦略たりうるのか?

我々が安保斗争として斗つて来たこの数年間に於いて、我々が主張し用いてきたのは、70年安保の中に先行的表現されてゐる帝日主義戦争(それを保証するアルジアジーの权力形態(たゞ崩してアシド化))である。この様に戦争と权力を巡ぐるアルジアジーの攻防戦の質こそが、前段階武装蜂起なりのであり、それは、日本階級斗争の歴史と日本の攻防戦の質こそが、前段階武装蜂起なりのであり、それは、日本階級斗争の歴史的・実践的到達点が、蜂起の時代に至つてゐること云うだけである。戦後、中央三度目の市場分割戦が開始され、60年代后半から70年代にかけて全面的侵略・抑圧一反革命戦争が開始されしとしている時代の到来である事、尚且つ、60年代后半の各回の前段階武装蜂起的斗争が、それが無自覚なる敗北し、吉界革命戦争蜂起 \rightarrow 吉界革命戦争が、吉界武装 \rightarrow レタリアの「史的任務」にてあり、それが更なる后退的面を呈していること、それが今必要なる事は、名曰前段階武装意訳的に組織されねばならぬこと、その吉界史的突破を切るものとして、日本 \rightarrow 日本マヨレタリアがその任につかねばならぬのである。

そこで、これは現実的には、まづ党派斗争=党派解体斗争として開始されるのであり、この党派斗争=党派解体斗争が大衆的レベルで斗われ、大衆の未端でこじらな貴敵 \rightarrow ねばならない。とりわけ、その対象は、これ迄、戦斗のであった諸党派であり、 \rightarrow 安保斗争の終了 \rightarrow 次の危機の時代での蜂起 \rightarrow と云う待期説に陥り、た諸君であり、「帝日主義戦争を内乱へ」「朝鮮戦争を内乱へ」と云つ、帝日主義戦争の開始を待つてゐる諸君であり、諸党派である。

いくのである。

今秋武装蜂起に向け六月平和下 \rightarrow を貫徹せしも、現在は蜂起の時代であり、過渡期吉界に於ける階級危機を惹つまり、戦争、抑止=反革命戦争の全面的開始を成熟させつゝある。

やに、ス年代后半、各回前段階蜂起の無自覚的敗北は、各回帝日主義の平和的發展 \rightarrow 平和共存 \rightarrow 也、謂の時代として、中央权力の下に、諸階層を統合 \rightarrow 侵略 \rightarrow カ四に、前段階蜂起 \rightarrow 吉界革命戦争への主体的準備 \rightarrow 抜きの蜂起は誤りである。その主体的準備の条件とは、吉界党=国际根據地=蜂起の軍隊=日系地下組織に他ならぬ。

第五に、六月決戦云々は、誤りである。(じん、下心棒の量的拡大下には勝利しえない)へ安保と云う政策阻止の次元に封じられる、「今、大衆がその自狀發生性の最良の部分に於いて要求してゐるものは、より根柢的なものである。」そうであるが故に、我々は、今秋武装蜂起の大月段階に於ける具体的形態を平和下モニマサ事を、全人民マヨレタリアーに要求する。

革命戦線(大阪地区委員会)

革命戦線(準)を結成し、公然たる蜂起の斗争を展開せしも、

23日、全大阪革命戦線決起集会(一時市大杉本チャーチ)

3月2日、全関西革命戦線(準)(同上)

(東京)